

わくわく通信

18号

2023.10

設立10年を迎えた NPO法人洛西福祉ネットワークのこれまでとこれから

NPO法人洛西福祉ネットワーク 理事長 齋藤 信男

NPO法人洛西福祉ネットワークは平成24年(2013年)4月15日設立開所式を竹の里会館で行った。

設立から10年目を迎えた今、新型コロナウイルス感染症の終息したことと併せ「わくわくサロン」のあり方を考える機会がきた。NPO法人洛西福祉ネットワーク設立の動機は、洛西ニュータウンがまち開きから30年を迎え、自然環境に調和した緑豊かなまちとして誕生した洛西ニュータウンも、時の流れとともに、地域の住民の少子高齢化、コミュニティの希薄化、サブセンターの機能低下、土地利用の変化など様々な課題を抱え込んできた中で京都市によって、平成17年8月に、地域住民や学識経験者、事業者、行政によって「洛西ニュータウンまちづくり検討会」が設置され、これからのまちづくりについて1年間の討議の結果、「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」が平成18年(2006

年)11月に完成した。「もつともつと魅力あるまちを目指して」として、その取り組みをするとした、その推進を担ったのが4地域自治連合会からなる「創生推進委員会」であった。それとは別にまちづくり委員会の企画委員会に関わっていた有志が集まり「洛西ニュータウン研究会」を立ち上げた。(以下、研究会という)研究会は京都経済短期大学の支援を得て月1回の研究会を開催し「まち



「里の秋」 蔦孝史氏

INDEX

NPO法人洛西福祉ネットワーク設立10周年記念号

NPO法人洛西福祉ネットワーク理事長 齋藤信男

(寄稿)

京都市西京区洛西担当区長 山中かおり	6
京都市住宅供給公社専務理事 森知史	7
社会福祉法人京都市西京区社会福祉協議会会長 小石玖三主	
竹の里地域社会福祉協議会副会長 田中與念子	8
境谷地域包括支援センター長 太田亜樹	9
京都市西部障害者地域生活支援センター 三好順子	10
竹の里学区民生児童委員会会長 廣瀬佐保	11
同志社大学名誉教授 新川達郎	12

(理事 わくわくサロン講師・利用者)

安定を目指す「まちづくり」(三宅正伸)	13
洛西福祉ネットの10周年を再出発のスタートに(東憲一)	14
「どうする! わくわく」(藤原隆信)	15
わくわくサロン十年の歩みの中から(赤穂利絵子)	
わくわくサロンに感謝(光木和子)	16
わくわく短歌・俳句同好会作品	17
NPO法人洛西福祉ネット2022年度活動報告	18
[案内] わくわくサロン / 京都生協おかいもの便	19
[PR記事] 竹の里地域社会福祉協議会の取り組み	20

[広告] (有) 万殿建設 (有) みずほファーム 竹の里センター管理組合 (一社) 洛西住民ネットワーク

づくりビジョン」の課題について検討を重ねた、数ある課題の中で若い世代をどのように増やすかについて議論を重ねたが、交通手段が整わない限り無理であるとの結論になり、それでは今任んでいる住民が「住み続けられるまちづくり」をするとして「洛西福祉ネットワーク」の設立に至った。

設立から7年間は無我夢中で行政の助成金を得て「まちづくり」の諸課題に取り組んだ、このネットワークの目的は、助け合いの心をもって、広く高齢者、障害者、子ども、及びその家族等に対して、見守りのシステムづくり、居場所づくり、健康づくり、生きがいづくり、困り事相談等々であった、この目的に沿って「高齢者の居場所カフェ」を柱として、洛西の高齢者向け講演会・セミナーを開催その他まちの賑わいとして「わくわくマルシェ」の開催、「洛西居場所交流会」、京都生協を支援して「おかいもの便」のスタートに尽力してきた、また平成28年（2016年）3月に策定された「洛西ニュータウンアクションプログラム」推進委員会に加わりその「高

齢者・障害者に住みやすいまちづくり、生きがいづくり」の推進に障害者週間の啓蒙等に取り組んできた。

2020年2月からコロナ感染が始まり2021年には「緊急事態宣言」が発せられ設立後始めて2ヶ月の休所を余儀なくされた。そんな時期に今後コロナ感染終息後の社会のあり方「新しい生活様式」を受けて私達NPO法人洛西福祉ネットワークのあり方も考える機会ともなった。これまでは行政の各種助成金で各種セミナー等を運営してきたが、助成金に頼らないあり方を求めなければならない。ここ数十年の社会状況は格差社会の拡大を生みだし貧富の差が拡大した。またIT化の勢いは日ごとに進進し高齢者がとり残される昨今である。私たち「居場所カフェ」は住み続けるまちづくりとして洛西福祉ネットワークの拠点としてきたが、設立から10年「居場所カフェ」に集う人の高齢化がより進みコロナ禍を経て施設に入る人等で減少してきた。

これは洛西ニュータウンの少子高齢化がとどまる事無く進んでい

る表れであり、京都市も三度目の取り組みとして、「若い世代を呼び込む」ことを主題に副市長を本部長とした洛西「SARKO（さあ、いこう）」プロジェクトを発足させた。3回のタウンミーティングを踏まえ「SARKO」の間まともが発表された。これによると「すぐに行けることを一気呵成に！」「あらゆる壁を突破して大胆こ！」と叫んでいる。

私たちは洛西ニュータウンを終わりの棲家として求めてきたものであり、この取り組みが「まちづくりビジョン」で描いた、「緑とゆとりを守り、各世代が支えあい心豊かに共生できるまち」でありたいと願うとしたものに対し、今回変革されようとする中での新・旧住民のコミュニティ、世代間ギャップ等洛西ニュータウンの変革による新たな課題に対し設立から10年を経た今「何が必要か」を考えNPO法人洛西福祉ネットワークの歩みを進めたい。



わくわくサロン開所式 (2013年4月15日 竹の里会館)



洛西福祉ネット設立10周年記念

居場所交流会 (第1回 2015年3月22日)

洛西にある様々な居場所同士の交流や情報交換を目的に、2015～2016年と2018年に計4回開催しました。

らくさい わくわくマップ(2014年4月)
洛西ニュータウンに住む皆さんが気軽に出かけられるきっかけになるよう、地域の活動や居場所カフェのマップを作成しました。



2 住民による草の根の居場所づくりの取組と

空き店舗活用による地域再活性化



写真 左：買物支援の様子、右：マルシェの様子 (写真 洛西福祉ネットワーク提供)

【洛西福祉ネットワーク】

(1) 地域概要

洛西福祉ネットワークが活動する洛西ニュータウンは、京都市西京区の丘陵地に開発された住宅地である。住宅地の解消、乱開発の防止、残存する住宅地の供給を目的に、京都府で最大規模計画住宅地として開発された200ヘクタールの広大なまちであり、数か年の中で4期建設の低層住宅や中高層住宅等がゆとりを持って立ち並び、その中に約3万人の住民が生きている。京都市中心部へは最速するバスで約1時間、最寄り駅である阪国線駅まで25分のところにある。

ニュータウンの住民は高齢・低賃、集合・戸建てといった多様なものが混在している。また、ニュータウン中心部にはセンター機能が行われており、区役所支所や図書館などの公共施設のほか、大型商業施設やホテルなどが立地している。

なお、地域内の住民の高齢比率は43.5%である。

(2) 取組にまつ経緯・課題
洛西ニュータウンでは、高齢者の急激な増加、少子化による若年世代の減少に伴うまちの活力の低下やコミュニティの崩壊など様々な問題が顕在していた。そのため、住民のコミュニティを活動の拠り所として、高齢者や障害者の生活を支える生きがいづくり・居場所づくりを進めることとなり、活動が始められた。

立ち上げの際には、以前から地域の課題に取り組んでいた住民有志と、活動に協力していたニュータウン近隣の大学教員などが中心メンバーとなった。

※ 京都市西京区ホームページ：2021年9月27日最終閲覧
https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoseki/page/00001022.html

※ 2021年7月1日現在の住民基本世帯人口、京都市ホームページ：2021年9月27日最終閲覧
https://www2.city.kyoto.lg.jp/kyoseki/Population/04/

国土交通政策研究所「エイジング・イン・プレイスに資する生活支援に関する調査研究」(2021年10月)において「高齢者を支える持続的取り組みの事例」として取り上げられました。

新聞に取り上げられた 洛西福祉ネットの活動

017	6 2018	7 2019	8 2020	9 2021	10 2022	11 2023
						
な居酒屋						
				竹の里会館ロビーカフェ		
				*コロナ禍により中止		
						
	たまごと野菜の日					
	ごま製品					
					お総菜	
				お花		
						
短歌同好会						
	中国語教室		中国語サロン			
					読書会	
						お抹茶をいただく会
		スマホ教室				スマホ教室
	④	⑤			⑥	⑦
		障害者週間講演会				
		④				
⑧	⑨ ⑩	⑪ ⑫	⑬ ⑭	⑮ ⑯	⑰	⑱
所めぐり			みなさんお元気ですか			

洛西福祉ネット設立10周年記念

NPO法人洛西福祉ネットワークの今日まで

洛西福祉ネットワーク設立10周年記念

活動	年度	1 2013	2 2014	3 2015	4 2016	5 2017
支え合い型ヘルプサービス事業						
支え合いボランティア養成講座						
居場所カフェ	わくわくサロン					
	ピアノ生演奏カフェ					ちいさ
昼食を楽しむ会						
買い物支援	野菜の朝市					
	お魚屋さん					
	パンの日					
	ケーキの日					お花
買い物取次ぎ	おばんざい					
	エーコープ					
京都生協おかいもの便						アグロス胡麻郷
趣味の同好会	わくわく短歌教室					わくわく
	わくわく俳句同好会					
	中国語講座					
	らくらくピアノ教室					
	わくわく英会話教室					
	書道教室					
つむぎのじかん						
わくわくマルシェ				①	②	③
わくわくサロンセミナー	(2回)	(7回)	(3回)	(3回)		
居場所交流会			① ②	③		
大学との連携	京都経済短期大学					
ボランティア			同志社大学院生		龍谷大学生	
広報 わくわく通信			① ②	③ ④	⑤ ⑥	⑦
RVC 洛西ケーブルビジョン						洛西居場

寄稿

NPO法人洛西福祉ネットワーク
法人設立10周年おめでとうございます

京都市西京区洛西担当区長 山中 かわり

NPO法人洛西福祉ネットワークにおかれましては、設立10周年という記念すべき節目を迎えられ心からのお祝いを申し上げます。

平成25年2月の貴法人設立の齋藤信男理事長のごあいさつにおいて、「地域福祉にかかわる様々な問題を（中略）「人と人とのつながり（ネットワーク）」を創りだし、そこでの「助け合い」の力で（中略）解決していきたい」とうたっておられます。

そのことばどおり、高齢者が気楽におでかけされるきっかけとなるらくさいわくわく♪マップの作成や、買い物支援、短歌・俳句同好会、ピアノ教室、昼食を楽しむ会、地域包括支援センターと連携した困りごと相談等わくわくサロンでの「買う・学ぶ・集う」活動や、さらには、平成30年から支え合い型ヘルプサービスを展開されるなど、新型コロナウイルス感染

症の拡大による活動制限を挟みながらも、住み続けられるまちを目指して多岐にわたり取り組んでこられましたことに深甚なる敬意を表します。

先般、京都市において、ニュータウンというまちの特性により極めて速く少子高齢化が進む洛西地域の活性化に向け「洛西“SAIKO（さあ、いこう）”プロジェクト〜みんなで進める実行策中間とりまとめ〜」を発表いたしました（最終とりまとめを11月に発表予定）。全庁をあげ、洛西地域の魅力を高め、新たな住民や機能と呼び込む方策を、住民・事業者の皆様と共に進めてまいりますので、皆様方の一層の御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。

貴法人の今後、益々の御発展と関係の皆様への御健勝・御多幸を祈念申し上げます。

洛西“SAIKO（さあ、いこう）”プロジェクト

みんなで進める！実行策 中間とりまとめ（2023年7月）

概要

05 洛西NTタウンセンターに賑わい×マンションを誘導！

便利で活気あるタウンセンターを目指し、賑わい施設併設のマンション立地を促進します。

住民の皆様からも声をいただいています！

Action 01
タウンセンター地区の都市計画（地区計画・高度地区）の見直し（タウンセンターでもマンションが建築可能に）

Action 02
賑わい施設併設の分譲マンションの立地促進

01 さらに便利に！バス交通をバージョンアップ！

地域の拠点から鉄道駅へ早くアクセスできるなど、より便利にバスネットワークを再編。洛西バスターミナルもリニューアル！

Action 01
鉄道駅へのアクセス抜群に！バス路線の再編を検討（早期に方針とりまとめ）可能なものから順次実施します。

洛西地域を運行するバス事業者（京阪京都交通、ヤサカバス、阪急バス、市バス）で連携して実施！
運動・通学も便利に！

Action 02
洛西バスターミナルのバス待ち環境の向上（バス路線の再編に併せて実施）

Action 03
公共交通の利便性向上に引き継ぎ取り組んでほしい。

公共バス敬老乗車証が洛西全域で利用可能に！（令和5年10月から）

みんなで進める！実行策のポイント

01 もっと便利に！もっと魅力的に！
豊かな自然・公園や充実したバス交通など、利便性が高く魅力的な洛西地域をリニューアルなどにより、もっと便利でもっと魅力的に。

02 新たな住民や機能と呼び込む！
もっと便利で魅力的な街にするためには、新たな住民や機能の呼び込みが必要。住まいの供給や公有地の活用などにより、呼び込みを加速。

03 すぐにできることを一気に！あらゆる壁を突破して大胆に！
これまで策定した将来像の実現に向けて、短期的な取組と中長期的な取組がありますが、まずはできることから始めます。あらゆる壁を突破して大胆に進めます！

04 みんなで進める！
行政だけの取組では、魅力的な洛西地域は実現できません。まちの担い手である住民・事業者の皆様と力を合わせ、実行していきます。

01 洛西NTタウンセンター*の魅力アップ

賑わいの中心・ラクセー専門店街を全面リニューアル。全ての世代にとって、便利で快適に！広場も、人々が集う居心地の良い空間に。

工事期間中、スーパー（生鮮食品）は臨時販売所で営業します。

Action 01
子ども向けイベントが定期的にあると、もっとNTに来たい。

本年12月リニューアルオープン
スーパーマーケットは先行オープンを目指します！

Action 02
働く場の充実にもつながる！

令和6年10月、医療モール進出予定！
（令和5年6月、洛西地域の医療・介護等に係る包括連携協定を締結！）

Action 03
大人も子どももワクワクするイベントや、みんなが集える空間づくりの取組（秋頃〜）らくさいマルシェも更に盛り上げていきます！

*洛西ニュータウンの中心として、様々な商業施設や金融機関、官公庁施設等が集積している地区。

寄稿

さあいこう！ みんなで進める洛西ニュータウンのまちづくり

京都市住宅供給公社 専務理事 森 知史

特定非営利法人洛西福祉ネットワーク様におかれましては、法人設立10周年を迎えられ、誠にありがとうございます。

また、日頃より京都市住宅供給公社の様々な事業にご理解とご協力をいただいておりますこと、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

洛西ニュータウンは、昭和51年（1976年）9月に入居が始まり、今年47年目に入ります。京都市の人口が140万人を超えたのは昭和43年、まちびらきの昭和51年には、約142万3千人となり、この年右京区から分区して西京区が誕生しています。

平成18年11月策定の『洛西ニュータウンまちづくりビジョン』には、「『洛西ニュータウン』には、住宅難の解消、乱開発の防止、秩序ある住宅地の供給を目的に、

より、多方面へのアクセス性が向上しています。

全国のニュータウンにおいても、駅までバスで10分以上かかるエリアは相当あります。地下鉄が開通していないのは大変残念ではありますが、緑豊かで歩行者ネットワークの充実した都市基盤、京都心部への近接性など、将来に向けて明るい要素は多々あると考えています。

京都市で初めて大規模住宅団地として開発された260ヘクタールの広大なまちであり、豊かな緑のなかでこう配屋根の低層住宅や中高層住宅がゆとりを持って立ち並び、…とあります。この都市環境は現時点においても維持されている一方、高齢者の急激な増加、少子化による若年世代の減少に伴うまちの活力の低下など：課題の顕在化も目前のことと言えます」と続き、この課題については残念ながら、全国の他のニュータウンや多くの地域と同様、進んでしまったといえるのではないのでしょうか。

平成15年（2003年）、洛西ニュータウンにとつても大きな出来事がありました。阪急洛西口駅の開業です。それまでの桂駅へのアクセスのみから、2方向のアクセスが可能となりました。続けて平成20年にはJR桂川駅開業に

現在京都市では、洛西「SAIKO（さあ、いこう）」プロジェクトの検討が行われており、私も参画しております。当公社においては、現在ラクセーヌ専門店の40周年リニューアル事業に取り組んでいます

が、7月に発表された中間とりまとめでは、洛西タウンセンターの魅力アップ、サブセンターの活性化をはじめ、若者を呼び込む住まいづくりとして、市営住宅のリノベ・活用や公社による既存住宅の買取り販売、バス交通を便利にパージョンアップ、公園の魅力アップなど、多岐にわたる実行策が掲げられており、これらの事業についても、しっかりと役割を果たしていきたいと考えてお

ります。

もとより、まちづくりはそこに関わる人の力によるところが大きく、貴ネットワークの様々なお取組に敬意を表するとともに、これからも連携すべきところはしっかりと連携し、ともに洛西ニュータウンの「まち」を盛り立てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

結びになりますが、貴ネットワークの益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして筆をおきます。ありがとうございます。

33

01 プロジェクトのサポーターを拡大

サポーターとの共汗で洛西「SAIKO」プロジェクトを推進します！

Action 01

地域発の動きとも連動し地域住民や事業者による「洛西「SAIKO」サポーター」を募集・拡大（口コ掲出、SNSでの魅力発信等）

Voice

様々な機会をつくって若い世代も交流・意見交換できる場を！

地域住民による京都西山の魅力発信、イベントの開催、美化清掃活動、モビリティ・マネジメントの取組など、地域住民自らが洛西地域をより良くしようとする地域発の様々な活動も行われています！

寄稿

法人設立10周年に寄せて

社会福祉法人京都市西京区社会福祉協議会 会長 小石 玖三子

洛西福祉ネットワークの法人設立10周年、誠におめでとうござい
ます。

皆様方におかれましては、齋藤
信男理事長を先頭に、長年にわた
り居場所づくり、生きがいづくり、
家事援助や相談事業等の活動に取り
組んでこられ、地域社会の発展
に大きく貢献されてきました。あ
らためて深く敬意と感謝の意を表
します。

さて、この10年を振り返ります
と、社会的孤立、生活困窮、ひき
こもり、虐待、ヤングケアラーの
問題など、地域の福祉課題がより
一層複雑化・多様化し、その課題
が以前と比べて、周囲から見えづ
らくなっていることを実感してお
ります。こうした課題に対応して
いくためには、人と人とのつなが
りのある地域共生社会に向けた取
組が必要になってまいります。皆
様がコロナ禍を始めとする様々
な困難な状況を乗り越えられ、現

寄稿

安心して住み続けられる街づくりを…
共に紡いでいきたいと思います。

竹の里地域社会福祉協議会 副会長 田中 與念子

洛西福祉ネットワーク設立10
周年おめでとうございます。

1976年に入居が始まった洛
西ニュータウンも、2020年国
勢調査によれば高齢化率43%と、
京都市全体の高齢化率28・2%
を大きく上回る地域となっていま
す。

この地にこの状況を見越し、10
年前に「助け合いの心をもって、
広く高齢者、障がい者、子ども及
びその家族等に対して、見守りの
システムづくり、居場所づくり、
健康づくり、生きがいづくり、困

りごと相談の場所づくり、住環境
の改善のための活動など、日常生
活に関する相談、支援に関する事
業を行い、地域社会の発展並びに
広く公益に寄与することを目的」
に作られました。居場所の提供や
カルチャースクール事業、家事援
助等在宅サービス事業を行う等、
多彩な福祉事業を展開されてきま

した。また、コロナ禍もカフェの
開催やマルシェの開催等にも尽力
されてきました。

これらの活動は地域社会福祉協
議会も心を一にするものです。ま
た、模とするものです。

今、洛西の地域は、市立芸大の
移転や、竹の里小学校と福西小学
校の統合、小中一貫校の開設等、
大きな曲がり角にきています。こ
の地域のこれからを作っていく大
事な時期であります。

洛西福祉ネットワークのモツ
ト「住み続けられる街づくり」
に「安心」をプラスして、この格
差社会の中でも行政や学校、多く
の団体とも手を取り合い、美しい
織物を紡ぐように、洛西の街を紡
いでいきたいと私は思っていま
す。

共に安心して住み続ける街を、
住民主体の力で、共に紡いでいき
ましよう。

寄稿

設立十周年おめでとうございます

境谷地域包括支援センターセンター長 太田 亜樹

わくわくサロン設立十周年、誠におめでとうございます。私が境谷地域包括支援センターで働くようになってまだ7年ほどですが、その間も様々な事業を新しく展開され続け、その行動力には驚かされるばかり、勉強させていただいてきました。先進的な取り組みを学び、関係する人間と話をし、一つ一つ実現まで繋げてこられた粘り強さに本当に頭が下がります。お茶を飲みながらお喋りしたり趣味ができる居場所としてだけでなく、高齢化やスーパージョブの撤退に伴い求められるようになったお買い物支援は非常に充実されていて、今後他の地域で取り組む参考にもなる素晴らしい取り組みだと思います。

お人柄や人脈があつてこそだったとも思います。体は徐々にしんどくなつても頭の中ではまだまだアイデアや思いが湧いて来ます。齋藤さんと一緒に盛り立ててくれる後継者をぜひとも見つけていただき、これからも共に住みよい洛西づくりに向けて活動することができればと願っております。微力ながらお手伝いさせていただきますので、今後ともよろしくお願いたします。



洛西福祉ネット設立10周年記念

高齢者の総合相談窓口（保健・医療・福祉）



高齢サポート・境谷

（京都市境谷地域包括支援センター）

担当学区（地域）：境谷、竹の里、大原野

〒610-1106 京都市西京区大枝沓掛町13-222
洛西シミズビル2階

電話 (075) 331-8781 FAX (075) 331-8763

メール houkatu@shimizu-hospital.or.jp



（一社）洛西住民ネットワーク

街の縁側
cafe'keyaki.
掬

境谷会館内



毎月第3日曜日
午前10時から

ふれあい食堂
洛西子ども食堂 けやキッズ

毎月第3土曜日
午後12時30分から受付

寄稿

「わくわくサロン」10年の歩みの中から
「おじさんのかさミュージカル」

社会福祉法人京都総合福祉会
京都市西部障害者地域生活支援センター
三好 順子

NPO法人洛西福祉ネットワークが法人設立10周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

支援センター「らくさい」は「洛西ニュータウンアクシオンプログラム」への参画をきっかけとして関わりを持たせて頂きました。

高齢者も障害者も住みやすい町づくりを念頭に地域で暮らす障害のある方も高齢者の居場所にお邪魔して、一緒にランチタイムを過ごす事から始まりました。その中で、昼食後にこれまでサロンでも取り組まれていた歌謡曲や童謡と一緒に歌う時間が生まれ、平成30年には、「みんなで歌おう会」となり、月一回グループホームで暮らす障害のある方や、地域にお住まいの方、サロンに来られる方で、それぞれが歌いたい曲をリクエストして歌を通じて交流させて頂きました。わくわくマルシェで

も歌の発表をさせて頂くという機会を頂きました。

歌の発表だけに留まらず、光木さんや盛永さんのサポートの元、「みんなで歌おう・おどろう会」とネーミングも変わり、『おじさんのかさ』という絵本を題材にしたミュージカルに取り組み事になりました。歌の歌詞やメロディは完全にオリジナルでシルクハットや傘等の小道具も準備して頂き、絵本の世界観をとても素敵に表現される物となりました。ダンスについても皆で、手を上げるのか、ステップはどうするのか等をあれやこれやと打ち合わせながらいちから作って行きました。ただ、皆で集まったの練習が月一回でしたので、前回決めた振り付けを忘れてしまい、どうやったかな!?となる場面もありました。また、知的障害のある方と一緒に取り組む中で、セリフを覚えるのは大変で

したが、それぞれが絵本に登場する人物やネコなどになり切ったの演技はとても味があり、最初は小さかった声もどんどん自信がついて大きく立派にセリフを言うようになってきました。

このミュージカルをどの場で発表出来るのかを楽しみにしていたのですが、その時に新型コロナウィルスが、猛威を振るい始め、しばらくはわくわくサロンも活動を中止せざるを得ない状況となりました。そこから徐々に再開し、昨年11月のマルシェでようやく発表できた時は、とても感動し、みんなで作り上げた達成感を味わう事ができました。それも、洛西福祉ネットワークに携わる多くの方々のご尽力があつての事です。改めて感謝申し上げます。

地域で暮らす障害のある方や事業所のニーズとしては、毎日通所等が終わってからでも立ち寄れるような居場所や、事業所で日々作りをされている作品を販売できる場所、地域の方々と交流できる場所等があれば良いなど、いう声を聞きます。今後新たな展開をどうしていくのか、「また、一緒に

ミュージカルやるな」と言ってお下さる方の声を胸に地域の皆様や行政、障害保健福祉事業所と一緒に考えて行きたいと思えます。末筆ながら洛西福祉ネットワークの一層のご発展とご活躍をご祈念させて頂きます。



▶「竹の里わくわくマルシェ」
(2022年11月5日)にて

寄稿

地域の灯台に！

竹の里学区民生児童委員会 会長 廣瀬 佐保

私は伏見に生まれ、育ち、37歳の時、結婚を機に洛西ニュータウンに移り住んで約35年になります。地域の自治会の役員から始まり、こどもの小学校の保護者の役員等やる中、一人暮らしの母が脳梗塞になり（要介護度5）寝たきりの母を引き取り在宅介護生活が始まりました。デイサービス、入浴介助の訪問介護、往診、訪問リハビリマッサージ、ショートサービス等利用してやって来ました。

た。一年間は私自身、苦しい抗癌剤治療が、食欲不振、味覚障害を乗り越え一完治!!の声を聞き万歳!!

私の再出発 パートの仕事

(三菱病院職員及び喫茶店勤務)

その間も「虹の会」「民生児童委員会」も続けてやってきました。パートの仕事は70歳になり12年勤務で辞めることにしました。福祉と関わる様になり多くの事を学ばせて戴きました。

役所、社会福祉協議会、また病院、施設等々に関わってきました。老後、健康で長寿を目指す私にとって、カーブスのチラシに出会い入会しました。1年8カ月、週2日位の居場所です。昨年12月の改選で民生児童委員会の学区会長となり大変!!

ケアマネージャーさんから、西京・介護の会「虹の会」を紹介していただき入会しました。同書を共有でき「虹の会」ニュースで情報をもらい、ひとりぼっちじゃない、仲間がいるとだんだん活動に参加して楽しく介護できました。また一番大変な時に世話人代表を7年間勤めさせてもらいました。介護中に私自身が胃癌になりステージ3で胃を3/4切除手術をして2カ月後に母が亡くなりました。

少子高齢化、独居老人、認知症、障がい者のかかえる問題をどう見

守り、どう応援、支援していけるのか？地域の灯台として活動しています。3年前にコロナウイルスが世界中に広がり、今年5月にやっと五類に移行し、昨年2月にロシアがウクライナに侵攻し戦争中、地震、台風、大雨、猛暑、山火事等々、胸を痛めています。世界中の平和と安穩を祈っています。

祝 NPO法人 洛西福祉ネットワーク10周年

まんどの建設

小さな修理からリフォーム、新築までの建設サービスに加え、地域の皆様のお役に立つ不動産サービスの提供。

有限会社 万殿建設 ☎ 0120-31-4978

京都市西京区大枝西新林町1丁目9-10
TEL: 075-333-2630 FAX: 075-333-2600

わくわくサロンさん 10周年おめでとうございます



●みずほファームの「葉酸たまご」販売中です。



【直売所】みずほファーム洛西大枝店

営業時間 9:30~16:30
西京区大枝西長町2-71
TEL:075-925-6822



祝 NPO法人 洛西福祉ネットワーク10周年

アッシュヘアラボ

ヘアサロン タケノサト

リカーマウンテン 洛西店

NPO法人 洛西福祉ネットワーク

竹の里センター管理組合

会長 長谷川 督

京都市西京区大原野西竹の里町 1 丁目 19-4
TEL:075-332-1022

寄稿

「わくわくサロン」10年の歩みから 今後の活動展開を考える

同志社大学 名誉教授 新川達郎

NPO法人洛西福祉ネットワークにおかれましては、その法人化以来10年の節目を迎えられること、誠にめでたくございます。

この間、広い意味で地域の福祉を担う活動を継続的に展開されてきたことに、改めて感服しています。「継続は力」という言葉がありますが、着実に毎日の活動を積み重ね、様々なトラブルを丁寧に解決しながらの年月であったことと拝察いたします。その間に洛西福祉ネットワーク自体が地域住民の力を伸ばしながら地域に根を張り活力を吹き込み続けた活動は大変価値あるものだと思います。

ところで、洛西ニュータウンは1969年に開発計画が発表され、1976年に入居が始まりましたので、それ以来、およそ50年の歴史があります。開発初期に入居が大きく進んだこと、その後の公共交通体系の整備が遅れたこと

等々によって、2000年ころには人口減少に直面することになりました。人口減少や高齢化は、スーパリーの閉鎖など住民の日常生活を支える機能の衰退に端的に表れることになりました。全国各地で見られるような、かつてのニュータウンがオールドタウンになっていく現象でもあります。

洛西福祉ネットワークの設立とその活動は、衰退するオールドタウンを持続可能にするための取り組みでもありました。その活動には高齢者福祉にかかわる居場所づくりや、食料品販売の取次や場の提供、そのほか高齢社会の生活機能支援となる家事援助サービスがあります。それ以外に生涯学習にかかわる趣味の会や教室の開催など生きがいづくりにも多彩な活動をしておられ、その範囲は実に多岐にわたっています。

こうした取り組みを進めておら

れる中で住民福祉の向上が図られてきているはずですが、それにもかかわらず、この10年でさらに団地の高齢化や人口減少の問題はさらに進行しているようです。そして地域住民を支える地域住民による自主的な活動においてもその影響があり、高齢化や人口減少の圧力がかかってきているのではないかと思われます。これまでも危機的な事態ではあったのですが、それがさらに顕在化しているようでもあります。

今後に向けて人口減少は致し方ないとしても、その中で住民のウェルビーイングを少しでも向上させそれを維持し続けること、そして日常生活に必要な諸機能を維持していくことが大切になります。別の言い方をすれば、持続可能な地域をつくるということが、洛西ニュータウン全体の課題でもありますし、洛西福祉ネットワークの課題でもあります。

もちろん、洛西福祉ネットワークだけで地域のなにかもこの問題を解決することなどできません。実際に活動できることは限られています。しかしその限られた機能

を充実させ維持していくことは重要です。そのためには、これまで進めてこられた地域の力を発掘し続け地域内の協働を実現していくことも大切ですが、地域外からの様々な協力をいitだきながら持続可能な地域づくりに貢献することが求められているのではないのでしょうか。京都市行政はもちろん努力をしていますが、それ以外にもすでに様々な専門分野から多くの人たちの協力を得て活動が進んでいます。これらに加えてNPOやボランティア相互間で組織的な連携をさらに深めていくこと、協働を進めてプログラム開発をしていくことや外部の資源（人やお金など）を導入することも考える段階だと思います。外部からの資金提供や人材開発、専門知識や技術の提供（いわゆるプロボノ）などもまだまだ活用の余地がありそうです。

洛西福祉ネットワークの皆様が、今後の持続可能な地域づくりに向けて、団地再生と地域活性化に貢献し、地域福祉機能の向上と維持に貢献する活動を進めていくことに期待したいと思いま

す。そしてそのためには、これまでの活動のみにとらわれることなく自分たち自身の変革を続け、よ

りよい未来に向けて進んでいけるよう祈念いたしております。

理事

安定を目指す「まちづくり」

NPO法人洛西福祉ネットワーク 副理事長 三宅正伸

「危険」な状態から「安全」な状態にすることが究極の「まちづくり」政策です。「安全」な状態が続くことを「安心」と言いますが、それが続くことを「安定」と表現します。つまり、「まちづくり」とは変化よりも安定と考えられるわけです。新しいまちを創造したならば、そこでの住民の安定した生活を保障することが原則とされます。この原則は状況の変化により制度的変更が生じますが、それはあくまでも状況に対応するもので原則は変わらないと考えます。それでは洛西ニュータウンを建設した時の原則は何でしたでしょうか。私はハード面の専門家が遊び心とともに原則を考えた成果が洛西ニュータウンだったと思います。ハード面ではそれでよかったです。

のですが、ソフト面ではどうでしたでしょうか。つまり、住民による自治以上のアウトリーチの世界を目指さなくてはいけなかったのではないのでしょうか。アウトリーチとは究極の「味噌醤油」の人間関係です。これには強制的な制度を作るわけにはいかず、支援施策をどうするかの問題に尽きると考えます。三人寄れば文殊の知恵と言いますが、最少三人が考えた「まちづくり」の考えに助成金を出すような思い切った政策があっても不思議ではありません。行政関係者は世代の入れ替わりができなかったことが人口減少の原因であると言われます。このまま衰退していくのを何とか止めなくてはならないと人口を原則とした論理的思考が行われます。税金

を投入する行政効果からすればまったくそのとおりなのですが、ここで人口減少による衰退が悪いことなのかを落着いて考えなくてはなりません。一つでも思い切って人口が減少することを前提にした政策があってもよいと思います。つまり、少子高齢化の進んだ人口減少社会は洛西ニュータウンだけの問題ではありません。いろいろな世代が住むことが「まちづくり」の原則ですが、無理に若い世代を洛西ニュータウンの誘い入れようとすれば、必ず他地域での衰退が生じることは必定です。また、そのことよって「味噌醤油」の人間関係が築けるとは思えません。その点では空き家を賃貸にして親世代の近くに住めるようにする「近居」は自然に近い形と考えます。世代交代で行ってしまった若い世代に帰ってきてもらえることが、将来的にも親世代の住居を継承することにつながると思います。いつごろからか家族は同居の者に限られるようになりましたが、ファミリとはもった大きな概念ではないでしょうか。安定を目指す「まちづくり」の

原則を変更してまでの制度変化については如何なものかと思うわけです。医療・教育・福祉のような公共性の強い分野は安定した「まちづくり」の原則を支えています。この分野の充実こそが重要なことであると考えます。つまり、状況変化に伴うある程度の制度変化は容認できるとしても、それを超える原則に至る変化は洛西ニュータウンのテコ入れとしては成功するのかもしれませんが、他地域で新たな問題を生じさせる可能性が大きいと考えます。洛西ニュータウン内の家族同士が「味噌醤油」の人間関係になることが理想ですが、少なくとも自治会単位やNPO単位でのアウトリーチを喚起しなければならぬと考えます。PTAでのママ友も単位として有力ですが、まずは独居老人や高齢者のみの世帯を地域のファミリとして育てる必要があります。無理をして地域活動に無関心な若年世代を誘い込むよりも、地域社会に根差したファミリを築くこそこそが安定を目指す「まちづくり」の原則と考えます。

理事

NPO 洛西福祉ネットワークの10周年を
再出発のスタートに

一般社団法人洛西住民ネットワーク 代表理事 東憲一

おめでとございます。10年の歳月は早いものです。NPO 洛西福祉ネットが10周年ということ、私達の（一社）洛西住民ネットワークは15年目になるのだと今さら福祉ネットと住民ネットを重ね合わせて、お話し『いろいろあったね』と回顧する次第です。

洛西地域での住民活動は齋藤さんの方が先輩で、齋藤さんは藤原先生（京都経済短大）らと一緒に洛西のまちづくりの学習、研究検討や、住民、高齢者を対象として『わらじ医者』の早川一光医師を中心として講演会「いのちの大学」を定期的に開催するなど奮闘されてきました。

当時洛西NPO創生推進委員会があり、齋藤さんは恐らくこの委員会ではまちづくりは無理だと感じられたのでしょう。そこで福祉に強いまちづくりを目指して、このNPOの立上を計画されたのだと思っております。

このNPO 洛西福祉ネットワークが目指す方向と目的は、『助け合いの心をもって、広く高齢者、障がい者、子ども及びその家族等に対して、見守りのシステムづくり、居場所づくり、健康づくり、生きがいづくり、困りごと相談の場所づくり、住環境の改善のための活動、介護保険法に基づく事業など、日常生活に関する相談、支援に関する事業を行い、地域社会の発展並びに広く公益に寄与すること』です。（法人定款より）

そしてこの目的を達成するため具体的に活動する分野として保健・医療・福祉／社会教育／まちづくり／地域安全／人権・平和／子どもの健全育成／経済活動の活性化／消費者の保護／連絡・助言・援助。と9つの分野を挙げています。定款では兎角やりたい事を全て書き出しておくのが常識ですから、どのような活動をするかは理事役員が運営方針に基づいて協議

して企画、決定すれば良いわけですが。

社会福祉事業を営むには社会福祉法人であったり、NPO法人や社団法人、財団法人、更には株式会社や有限会社などの法人があります。ただ定款に謳っている事業が同でもできるのかと云えばそうは行きません。実は社会福祉事業は厚労省が第1種社会福祉事業と第2種社会福祉事業に分れていて、第1種は特別養護老人ホーム、児童養護施設、障害者支援施設、救護施設等で、社会福祉法人が経営できる事が原則となっています。

第2種は保育所や訪問介護、デイサービス、ジョイントステイ等です。これは社団法人以外の法人でも自由に届け出する事により一定の要件を満たしていれば経営できます。ですからNPO法人で第1種の施設を経営するわけにはゆきません。

少し硬い話ですが「福祉とは何か？」広辞苑によれば『幸福。公的扶助やサービスによる生活の安定、充足』と記載されています。これは日本国憲法の13条、25条の精神そのものではないかと思いま

す。今日の政府、地方自治体の公助の民間への丸投げ・削減、更に共助、自助を押し付け、更には互助を推し進める状況です。そして最終的には自己責任を押し付けてきます。そしてますます格差が拡大し、その格差は次世代に引き継がれて行きます。

こんなご時世の中で、この地域で、「今何をなすべきなのか」を協議し、そのことを取り組む必要があると思っております。例えば独居高齢者の見守り支援（民生委員や老人福祉員、社協）なのか、障害者（障害にも多種あり）への日常生活支援が欠けているのか、それとも少なくとも来てきている子どもへの支援が求められているのか、取りあえず「居場所」が必要なのか、地域の実態把握、調査が必要だと思います。グループホームやショートステイ、が必要なのか、政府厚労省の「総合事業」の「互助サービス」「助け合い」を進めるのか、福祉事業として中心は「これ」でやっていくことを今後一緒に探ってゆく事が必要かなと思うこの頃です。10年の節目で皆で考えてみませんか。

私達の手で共助、互助を進める活動が求められ、まさに福祉ネットワークの出番だと思えます。10年間培ってきた活動で団体や人の繋がりを大切にして、(一社)洛西住民ネットワークと共に大きく前進しましょう。

理事

「ぶんぶん・わくわく」

筑紫女学園大学現代社会学部 教授 藤原 隆信

NPO法人洛西福祉ネットワークの設立10周年、誠におめでとうございます。設立当初から理事長を務められている齋藤信男さんはじめ、現場で活動されている方々の長い歩みに感謝の意を表します。

現在、日本全国で多くのNPO法人が厳しい「現実」に直面しています。それは、組織構成員の高齢化と後継者不足という「現実」です。この問題は何もNPO法人に限ったものではありません。私が教育・研究に取り組んでいる「経営学」の分野でも、中小企業の後継者問題(事業継承問題)は大きなテーマになっております。そして、そのような問題を調査・研究し、その解決策を模索・提示すべき「学会」や「研究会」でも、会員の高齢化と若手研究者の減少が

進み、これまでのような活動を維持することが難しくなりつつあります。恐らく今、洛西福祉ネットワーク(『齋藤理事長』も同様の問題に直面し、悪戦苦闘されていることと思われます。このような問題は、日本全国で生じている問題であり、その解決策を模索して悪戦苦闘している状態は、まさに「日本全体の縮図」と言えるでしょう。

齋藤理事長には「何とかして後継者を探し出し、頑張って法人運営を継続してください!そのことが日本社会が直面している課題の解決に繋がります!」とお伝えすべきところですが…。(京都を離れている身としては、そのような無責任なことは言えません…)

突然話は変わりますが…。少し前から「終活」という言葉をよく耳にするようになりました。ご存じの通り「終活」とは、自分自身の人生の終え方を意識的に考える活動のことです。改めて考えると、個人だけでなく組織でも「終活」を考へるべき時代が来ているのかも知れません。これまた良く耳にする「安楽死」という言葉。「助かる見込みのない病人を」本人の希望に従って苦痛の少ない状態で人為的に死なせること」です。組織の「終活」同様、組織の「安楽死」というものも考へていく必要があるのかも知れません。私もできればハッピーな気分です。「最期」を迎えたいものです。「安楽死」よりも「尊厳死」という言葉の方が近いのかも知れません。

個人としての「終活」や「安楽死」について議論するのと同様に、組織の「終活」や「安楽死(尊厳死)」について議論する「場」があっても良いのかも知れません。組織のメンバーが元気なうちに、ハッピーな気分を楽しみながら「最期」を迎える方法を考へる。「最期」を迎えるための「考へ方(意識)」や「取り組み方法」を、みんなでわくわ

くしながら考へ、みんなでわくわくしながら実践する。そのような活動、いわば「組織のための『終活マニュアル』づくり。そんな形で、洛西福祉ネットワークとして「組織の終活」の先進事例を作っていくのも面白いのかも知れません。(あくまでも個人的な意見です。スミマセン。)

とは言え、洛西福祉ネットワークが「最期」を迎えたとしても、地域の課題がなくなるわけではありません。しかし、その解決は新たな発想や価値観を持った「若い世代」に任せられた方が良いでしょう。大学の教育現場でも、教員が指導するよりも、若い学生達の自由な発想に任せられた方が素晴らしいアイデアが導き出されることが良くあります。「教員」として、また「人生の先輩」として、ついつい口を出したくなりますが、「口出し」した途端、学生達は自分で考へ、行動することを止めてしまいます…。私たち「古い世代」は、「若い世代」が自由な発想で考へ、自主的に行動を起こすのを辛抱強く待ち続けることが必要なのかも知れません。

わくわくサロン 講師

わくわくサロン十年の歩みの中から

わくわくピアノ教室 元講師 赤穂 利絵子

わくわくサロン十周年、おめでとうございます。

十年の年月の中で私にとって印象深いのはなんとといっても、サロン内にあるピアノです。もともと存在しなかったアップライトピアノでしたがある時、ピアノ教室の生徒さんからの寄贈により又、ピアノの設置許可をして頂いた齊藤さんのお陰で、ピアノのあるサロンになりました。

そのピアノを使ってお教室をさせて頂いていた頃の思い出について、本当に素晴らしい出会いばかりがありました。

自分よりも多くを生きておられる大先輩との交流。その中でも人生をテーマに、美味しい珈琲を飲みながらの語り合いはとても有意義な時間でした。

また、わくわくサロンで、カフェを楽しむお客様にBGMとしてピアノ演奏させて頂いた時もありま

した。自分の好きな曲にもかかわらず、一緒になってお歌を歌って頂いたこともあり、これもまた私にとっては、かけがえない素晴らしい思い出の一つです。

現在は結婚、そして子育てのためピアノを使ってお活動を休止していますが機会があれば、わくわくサロンのピアノとまた会話をしたいなあと思う日々です。

最後になりましたが、わくわくサロン発起人である齊藤さん、ここで活動されているボランティアの皆様のお陰でわくわくサロンが今日まで続いていることを心より感謝申し上げます。

これからも地域と共にわくわくサロンがあり続けることを願って私の執筆をおわります。最後までお読み頂き、ありがとうございます。



わくわくサロン 利用者

わくわくサロンに感謝

光木 和子

わくわくサロンに寄せてもらうようになったのは5年前、ピアノ教室に誘われてからのことです。

短歌会にも入れていただきテキストにゆるーく楽しませてもらっています。考えたら70歳を過ぎからの新しい挑戦、素晴らしいことですよ。

グループホームの方たちと一緒に取り組んだ「おじさんのかさ」は、集まった人との交流があなたかく新鮮で、創り上げていくことの喜びは、生きていくエネルギーになるだなと実感させていただきました。

わくわくサロンは竹の里の住人の井戸端会議の場でもあり、ここに関わる人たちの文化交流の場でもあります。高齢者にとって珈琲を飲みながら過ごすひとときは、老いを語り合い、老いをかみしめつつ、老いを忘れて明日からの元気をもらうひとときですね。

わくわく短歌同好会



題詠「運動」

はればれと若葉たたせるグラウンドの投げ打ち
受ける声にひたれり

鈴木瑠美子

突然の脳梗塞で三ヶ月再び通う卓球クラブ

野田 順子

体力の効果ともかく早十年食後のウォーク二
人の語り場

光木 和子

雨の朝ごはん三杯おかわりすきらいな運動会
中止になりて

長谷川幸子

わががえりと書かれた青い送迎車スポーツジ
ムのようなデイケア

伊藤由美子

梅雨晴れ間グラウンドにボール蹴る音のはた
と止りぬ夏至の十九時

菊田 弘子

自由詠

子の前でエサをくわえて親は舞うツバメの巣
立ち近づいてきぬ

永井 恵美

ときめきは老いにもありし街に出て一日一度
は恋をしている

岨中 幸男

サンオイル塗りし夏の日懐かしく日傘離せぬ
齢となりて

簗岡 勝子

ATMの失敗くり返し離れば多数の冷たき
目吾に注ぎぬ

今川 素美

急な雨に傘さしかけてくれし人今も忘れず五
十年経つ

村田のりよし

掘りたての不揃いの馬鈴薯持ちくれし笑顔の
友は土の香のする

森田 佳子

わくわく俳句同好会

兼題「祇園祭」

木賊山袴の孫十五歳

伊藤由美子

宵山や商社の宝屏風見に

中野 硯池

祇園会や母が見守る稚児の役

谷口 和子

強力の肩に乗りたる銚の稚児

森田 佳子

自由句

仲直り夫に差し出す心太とらとら

村田のりよし

夏立ちて少年野球駆けゆけり

西田かず子

暑さ追うスイカ前線北上中

三宅 正伸

夕立や老若男女右往左往

簗岡 勝子

踏まれてもなお立ち上がる野草の芽

岨中 幸男



NPO法人 洛西福祉ネットワーク 2022年度 活動報告

役員名簿

理事長	齋藤 信男	副理事長	三宅 正伸	理事	榎田 基明
理事	津田 信吾	理事	藤原 隆信	理事	山本 英夫
理事	東 憲一	理事	森田 佳子	監事	廣田みつ子

2022年度活動計算書

(令和4年1月1日～令和4年12月31日) (単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
受取助成金	370,000	
事業収益	216,997	
会費・寄付他	197,000	
経常収益計		2,509,472
II 経常費用		
事業費	2,447,634	
管理費	173,455	
経常費用計		2,621,089
当期経常増減額		-111,617
III 経常外費用		
過年度損益修正損	78,040	
経常外費用計		78,040
税引前当期正味財産増減額		-33,577
当期正味財産増減額		-103,577
前期繰越正味財産額		1,133,001
次期繰越正味財産額		1,029,424

2022年度貸借対照表

(令和4年12月31日現在) (単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
現金預金	1,209,424		
敷金	460,000		
資産合計		1,669,424	1,669,424
II 負債の部			
未払法人税等	70,000		
長期借入金	570,000		
負債合計		640,000	640,000
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,133,001	
当期正味財産増減額		-103,577	
正味財産合計			1,029,424
負債及び正味財産合計			1,669,424

FAX:075-333-3399

【子ども食堂を考える会】
『子ども食堂は何故必要か』

資金不足を抱えながら全国で増え続けている「子ども食堂」
なぜ必要なのかを考えてみたいと計画しました。

講師：吉祥院ししまる食堂
主任委員 石田尚志さん
地域支援拠点推進員

日時：8月20日(土) 13時30分～15時30分
会場：竹の里会館 第2会議室
会費：無料
(竹の里子ども食堂支援カンパをお願いします)
定員：20名(申込先着)
申込：わくわくサロンへ電話又はFAX
電話：075-333-3392
FAX：075-333-3399

特定非営利活動法人洛西福祉ネットワーク
【子ども食堂を考える会】参加申込書

氏名	団体名
連絡先電話番号	
メールアドレス	

わくわくマルシェ

2022年11月5日
竹の里センター広場
洛西竹の里会館



子ども食堂を考える会 「子ども食堂は何故必要か」

講師：石田尚志 (吉祥院ししまる食堂)
2022年8月20日 洛西竹の里会館



スマホ入門講座

2022年4月28日 わくわくサロン

竹の里会館ロビーカフェ
毎月第4土曜日 10～15時
竹の里会館ロビー



学ぶ

わくわく俳句同好会

第3月曜日 13:30~15:00

定員 10名
参加費 500円/回
♡みんなで楽しくやりましょう

読書会

第4月曜日 13:30~15:00

参加費 500円/回
♡あなたの愛読書を発表

わくわく英会話教室

講師：石垣ちかさん
第1・3金曜日 13:40~14:40
定員 8名
受講料 2,000円/月
教材費 500円

らくらくピアノ教室

講師：今村友紀さん
(全日本らくらくピアノ協会京都支部2級認定講師)
《水曜クラス》
第1・3水曜日 14:00~15:30
《木曜クラス》
第2・4木曜日 13:15~14:45
定員 7名
受講料 2,000円/月
♡ピアノがなくてもOK

わくわく短歌同好会

第2月曜日 13:30~15:30
定員 10名
参加費 500円/回
♡人気の教室！初心者歓迎

憩う

お抹茶をいただく会 New

第1木曜日 13:30~15:00
参加費 800円/回
♣おいしいお抹茶とお菓子をどうぞ

わくわくサロン

月~金曜日 9:30~12:30
♣コーヒー、紅茶、野菜ジュース

竹の里会館ロビーカフェ

毎月第4土曜日 10:00~15:00
♣コーヒー、紅茶、ジュース

買う

野菜の朝市

大原野かぐやひめ市

毎週水曜日 9:30~12:30
♡お手頃価格でお求め頂けます

野菜の朝市

the Veggie seasons

毎週月曜日 9:30~12:30
♡大原野から露地栽培の無農薬・減農薬野菜をお届け！

たまごと野菜の日

みずほファーム

第2・4金曜日 9:30~16:00
♡京丹波からおいしい便り

お総菜

梅 ハウス

第2・4金曜日 9:30~12:30
♡惣菜、おにぎり、サンドウィッチ

買い物取り次ぎ

アグロス胡麻郷

申込 毎週月~金曜日
受取 翌週火曜日
♡お米、みそ

京都生協のおかいもの便

	毎週	月曜日	木曜日
府営竹の里団地		10:40~11:05	12:05~12:30
東竹の里市営西55棟付近		11:15~11:30	11:35~11:50
東竹の里市営西集会所		11:40~11:55	11:15~11:30
東竹の里市営中集会所		12:00~12:30	10:35~11:05
	毎週	火曜日	金曜日
東竹の里市営東集会所		12:20~12:45	12:05~12:30
西竹の里1丁目		10:35~10:50	15:05~15:10
西竹の里タウンハウス集会所		10:55~11:10	14:15~14:30
わくわくサロン前		11:20~11:35	14:00~14:10

	毎週	火曜日	金曜日
西境谷町4丁目①		11:40~11:55	14:40~14:55
西境谷町4丁目②		12:00~12:10	-
西境谷町1丁目南部		-	15:15~15:25
境谷西第1住宅		14:10~14:25	10:40~10:55
西竹の里テラスハウス集会所		14:30~14:40	11:00~11:15
西竹の里テラスハウス7期東側		14:45~15:00	11:20~11:35
UR洛西新林北団地①13棟北		15:10~15:25	-
UR洛西新林団地		15:30~15:50	15:30~15:50
北福西町3丁目		16:00~16:20	16:00~16:20
UR洛西新林団地		-	10:35~11:05
UR洛西竹の里団地		-	11:40~11:55

竹の里地域社会福祉協議会の取り組み

竹の里社協って？

竹の里地域で住民が主体となり運営している任意の団体です。介護予防教室や寝具クリーニングなど、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指して活動を進めています。



元気さわやか教室

介護が必要な状態にならないように、みんなで楽しく運動やおしゃべりをしています。

会場 竹の里会館（第3月曜） 府宮集会所（第4火曜）

市営中・市営西集会所（第4金曜）

費用 300円（昼食持ち帰り）

対象 65歳以上の方

寝具クリーニング



気持ちの良いお布団で寝てほしいという思いから始まった取組です。赤い羽根共同募金を活用し、実施しています。

時期 10月頃

対象 70歳以上独居世帯

高齢者のみの世帯

障害者世帯

費用 300円

介護予防研修会



年に1回、民生児童委員会、NPO法人洛西福祉ネットワークと共催し、介護予防に関する普及・啓発を行っています。

子育て広場 (クリスマス会)



クリスマスの時期にお子さんと保護者と一緒に楽しく交流をしています。コロナ禍の間はクリスマスプレゼントを配りました。

対象 0～4歳児とその保護者

費用 無料

* 詳細・申し込みは回覧でお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

竹の里社協では、一緒に地域で活躍していただける

ボランティアを募集しています。

「何か地域のために活動したいけどどうしたら良いかわからない」

「私にもなにかできることがあるかな」という方、ぜひ一緒に活動してみませんか？

また竹の里社協や西京区の地域福祉活動を応援していただける

賛助会員も募集しています。

詳細をご希望の方はお気軽にお問合せください。

連絡先 090-2859-0652 (田中與念子)



わくわく通信 第18号 2023年10月発行

発行 NPO法人

洛西福祉ネットワーク

(編集協力 企業組合 Fuu空間計画)

電話 075(333)3392 FAX 075(333)3399

http://rakusai-fukusinet.life.coocan.jp/ ✉ rakusai1.net@gmail.com

〒610-1145

京都市西京区大原野西竹の里町1丁目19-4 竹の里センター内